成年年齢引下げを見据えた環境整備に関する
関係府省庁連絡会議
成人式の時期や在り方等に関する分科会
（第２回）

第１　日　時　　平成３０年１１月２６日（月）　自　午後２時００分
　　至　午後３時３８分

第２　場　所　　東京地方検察庁刑事部会議室

議　　事

○法務省民事局　それでは，定刻となりましたので，ただいまから第２回成人式の時期や在り方等に関する分科会を開催いたします。

本日は，成年年齢引下げ後の成人式の時期や在り方等につきまして，参考人の方からヒアリングを実施するということとなっておりまして，参考人として，日本きもの連盟会長理事の奥山功様，協同組合日本写真館協会理事の堀恵介様，中央区新成人のつどい実行委員会ＯＢＯＧ会長の米倉美寿々様，京都市子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部長の上田廣久様にお越しいただいております。お忙しい中，本日は御出席いただきましてどうもありがとうございます。

それでは，早速，ヒアリングに進ませていただきたいと思います。

それでは，まず，奥山様からお願いいたします。

○日本きもの連盟　御紹介ありました，きもの連盟の会長をやっております奥山でございます。業界を代表してということで，一応お話しさせていただきます。

我々の業界は，直接お客様，当事者の人たちと触れ合って，直接関係があるとすれば，皆様御承知のとおり，成人式当日，晴れ着という形で振り袖等，または男性の羽織はかま等，いろんな形で携わっているわけでございますけれども，これも，それこそ私が記憶する限りでも，半世紀以上ぐらいから晴れ着を着るということがどんどんどんどん，一時的にぜいたくだとかいろんな声も上がった時期があったんですけれども，逆に晴れ着を着る，成人の日に晴れ着を着るということが，いかにも定着がどんどん勢いよくなってまいりまして，昨今ではそれが当たり前のような形で成人式を迎えるという形をしております。

着物の業界というのは，振り袖だけではありませんけれども，その中でも大変，位置付けとしてミスの第一礼装という形で，業界としては本来，ミスの第一礼装ですから，１７歳，１６歳ぐらいから振り袖というものを着ていただきたいなということで育んできたわけですけれども，現実のほうは，ここ本当に１０年ぐらいは，振り袖イコール成人式の晴れ着ですよねという傾向が強くなりまして，それがまた皆さんに浸透して，当日については，それこそ今年の正月に苦々しい事件があったように，振り袖を着て成人を祝うということが，国民の中に全て浸透してしまって，それが着れないということがいかに残念だったかということが，ああいう忌まわしい事件を通してでも，着られる方が非常に楽しみに待たれていたという現実を見ております。

１８歳の成人に法律的になるよという傾向が動いたときから，今年になって，１８歳，２０２２年からということが決まる以前から，我々業界のほうは，１８の場合はどうなるんだろうかというような形で，シミュレーションをずっと続けてきております。それで，当事者，いわゆる１８歳ではなくて二十の人たち，二十そのもので，当日問題，そして去年終わった人たちの問題，その人たちに問い合わせをしたところ，やはり意見的には二十の祝が一番，今やっていることが一番ふさわしいというような形が動きまして，最終的には，やはり当事者が一番大事な，当事者を一番守ってあげるのが大事ことじゃないかというような形で，我々運動を起こしていったわけですけれども。

振り袖というのは，私らが思う以上に，着られる方，また求められる方が非常に高い位置に依存しておりまして，それを着ることが楽しみという状態，我々が作戦的に売っていく

ということではなくて，本当に七五三から始まって，日本の女性が憧れて着ていくという節目，形の節目というものに対して非常に定着していた。男性にしても，お酒を飲んで騒いだりする残念な事件もありますけれども，やはり二十になったぞという成果を，羽織はかまを着たりして，日本男子であるということを意識するような位置付けにもなっているというような形で，非常に１８がいいのか，二十がいいのかということをさておいて，要するに，お祝い事として一番いいときはいつなんだろうかというような形に着目をしてまいりました。

それから，業界を代表してという形で言って，業界のことで話をすれば，１８歳に例えば移動した場合については，恐らく環境的に，振り袖を着たり晴れ着を着たりするような環境の中にはないだろうということは予測されます。そういうことになりますと，業界のほうの，いわゆる製造元から始まりまして，販売に携わるところまでいきますと，かなりの影響力があるということは，これは承知の上でございます。ただ，それを左のほうに置いておいても，問題としては，現実にそれを着られる方がどういう思いで着ているのかということを重視するべきじゃないだろうかと。文化としてどのように見られているかといったときに，やはり日本の着物というものを考えたときに，成人というときを通して，振り袖に袖を通すということは，日本の女性が一生くぐっていく上に非常に大切な，日本人のアイデンティティーを育むのに非常に大切なものであるということが分かってきているわけですね。

これをもし１８歳に切りかえたときに，高校生であるわけですし，そういうふうな環境にないんだから，とても，そんな晴れがましくしなくてもいいんじゃないかというような形になった場合に，恐らく１０年，２０年，３０年という将来を考えたときに，振り袖という位置付けが普通の，要するに着物としてただあるだけのことであって，今では皆さん御存じのとおり，例えば，着物姿というのはほとんど見られません。昔は，お葬式になったら喪服というようなものを，皆さんでこぞって，日本の伝統としてお互い哀悼するということだったんですが，洋文化のほうがどんどん入ってきまして，全て洋服で簡略するというような形になってきますと，振り袖の位置付けもそちらのほうに移行するのではなかろうかなと。そうすると，日本人であるアイデンティティーが非常に乏しくなるんではないかと。世界から見たときの着物の位置付けというのは，非常に高いものがあるもんですから，それを誇れるものが振り袖であり，袴でありというようなことを考えたときに，１８に変わることによっての影響というのは，非常に強いなというふうな形を感じています。

それから，私どもは，１８になったら商売上が暇になるとか，そういうことを中心に話をしているんじゃなくて，現実にどのように思われているかと，おじいちゃん，おばあちゃん，そしてお父さん，お母さん，そして本人といった場合，それと今の現実の１４歳，１５歳の人たちにも聞き合わせしております。ぴんと来ないというのが現実の問題ですけれども，１８歳，あと３年したら成人式ですよと言われたときに，今の中学生に聞いたら，ほとんどの人たちは全然自分のものとして受け入れておりません。ようやく高校３年生ぐらいになると，卒業して，あと２年たったら，お母さん，振り袖が要るよねというような形で動き出します。ですから，そういう意味では早めに，非常にこれ残念なんですけれども，傾向としては，選ぶときも大体１年半ぐらい前から動き出します。これは，我々がどうのこうのではなくて，美容とかいろんなことを考えたときに，当日が皆さん殺到します

ので，そういうのでいえば，１年半ぐらい前から売り出すということになりますと，いわゆる２３年というのは２０２１年ぐらいからもう影響が出てくるというようなことも考えて，願わくは，２０という姿のままでいかせていただければ，非常にスムーズに，成人の年齢は，いわゆる選挙権とか投票については１８歳になりましたけれども，国民として，お祝い事という取り上げるのは２０という姿でやったほうが，一番うれしいのかなと。

実は，皆さんに資料として出していませんけれども，１０月２日に日本人がまたノーベル賞をいただいたときに，いわゆるドクターですね，京都のほうの本庶さんという方が新聞にでかでかと載ったと思うんです，最初に，またノーベル賞をいただいたということで。このときに，私，着目したのは，この中で，皆さんがお祝い事してたくさんのことを述べているんですが，その中に感謝し切れない患者の声ということが載っていました。そこを見ますと，この患者ががんで痛んでいたわけですね。ところが，この先生が発明してくれた，ステージ４だったんですが，この薬のおかげで，俺は死ぬのかなと思って，いろんなことを心配して将来が真っ暗になったんですけれども，今では，平日は仕事に励み，週末にはゴルフを楽しんだりしていて，何よりも今春に長女の卒業式に出席をして，そして，なおかつ成人式の晴れ着の姿を見ることが本当に楽しみであったと，本庶先生がいなければ，私は間違いなくこういう姿を見られなかったでしょうというふうな形で，こういう患者さんは，命にかかったときに，娘の晴れ姿を見られてよかったと，これが現実に，いわゆる着物に，振り袖がとりなす位置付けと違うのかなというようなことを考えたときに，すごく２０の祭典というのが国民にもう浸透してしまっているんだなと，そのまま我々は，それをずっと援助してあげたいなというふうな気持ちでいるわけですね。

そんなことで，今日，資料も，新聞のほうに報道したという形でいろんな形で中に入っておりますので，成人の２０がいいのか，または２０のお祝いのときにどれだけ皆さんにぎやかにやってきたのかなということの抜粋したものを，資料として添えさせていただいておりますので，またそれを見ていただきまして，参考にしていただけたらどうかなということで，ここに，資料のほうにもいろいろと書き込んでおりますけれども，今，生の声で，我々協会のほうとしては，２０のままの姿でいかせていただけたほうが，お客様，または国民の皆様そのものが，非常にそれを望んでいるということではないのかなということを，データでも感じますということを報告しまして，私のほうのお話とさせてもらいます。

○法務省民事局　奥山様，どうもありがとうございました。

それでは，続きまして，堀様にお願いいたします。

○協同組合日本写真館協会　日本写真館協会の理事を務めております堀と申します。よろしくお願いいたします。

今の奥山さんの御意見と重複するところが結構あるとは思うんですが，同じ思いで述べさせていただきます。よろしくお願いいたします。

我々写真館は，成人式を初めとして，例えば結婚とか出産，あるいは七五三，それから卒業など，人々の人生の節目の思い出を記録として記念に残すという仕事が中心の仕事としてございます。その中で，成人式という和装文化に携わる記念撮影は，写真館にとっては大変大きなイベントでございまして，毎年多くのお客様が御来店されてにぎわっております。

私たち，私のところも写真館でございますが，成人式の撮影で，私どもがお客様と接して

いますと，親の感情といいますか，娘を持った親の，例えば，精いっぱい愛情を注いで，成長した娘に素敵な晴れ着を着せて成人式を祝いたいという，これは御両親の思いだと思うんですが，そういったものが強く，お客様と接していますと感じとれることが多くあります。また，お嬢様も，もう一つその前にお父様と撮った七五三で晴れ着を着られることがあると思うんですが，振り袖を着られることがあると思うんですが，そのときよりも，自分自身で着物を着てみたいという気持ちを持っていらっしゃって，着物を選ぶ際を含めて，非常に長い時間を費やして成人式に臨んでいらっしゃると。そして，その仕上げとして記念写真を私どものほうで撮影すると，そういう親と子の強い思いを撮影時に感じることがしばしばございます。そういった意味で，成人式が日本の伝統である和装文化に触れる非常に大きなよい機会になっているというふうに考えております。

私たちは，もちろん私たち業界を含めて，１８歳成人に異議を唱えるとか，そういうことは全く考えておりませんが，もし１８歳で式典が行われるということになりますと，今定着しています二十の晴れ着を着る，振り袖を着る，そういうよい日本の和装文化が非常に危機に陥るのではないかという危惧を，私はしております。

先ほど申し上げましたが，晴れ着を着るに当たっては，衣装選びから美容室，写真室と，大変長い時間を費やしてお客様は決めていらっしゃいます。晴れ着，色とか，あるいは生地とか，いろんなものをいろいろ悩みながら，親とお嬢様で決定されたりしているんですが，これがもし１８歳で式典が行われるということになりますと，特に今の成人式，第２日曜日というような形になりますと，その時期は，多くの１８歳の方にとって大学受験の直前に当たる時期でございます。また，大学に行かない方も，就職を前にした就職活動をしていらっしゃるかもしれませんし，いずれにしても，その１８歳の人々にとって，この時期はある意味人生の分岐点に立たされている時期ではないかなというふうに考えております。この時期に成人式の式典が行われるとなると，そういった親の思いとか，それから子供の着物を着たいという思いなどは，二の次になるといいますか，１８歳の方々にとって，晴れ着という和装文化に目を向ける最も余裕の少ない時期に当たると，私は考えております。そうなると，我々，成人式で晴れ着を着るという一つの国民的文化が定着しているわけでありますが，これがどんどん薄らいでいって，将来的にはこれが消滅してしまうんではないかという危機感を持っております。

着物を着るということは，成人式のときに初めて大人になって着る方がほとんどだと思います。我々はもう写真館ですのでしょっちゅう着物を見ておりますが，お客様は非常に緊張され，初めての着物にいろんな思いを込めて撮影しております。その方々がだんだん，多分受験の前になりますと，着物を一生懸命見るとか選ぶとか，そんな時間は多分ほとんどなくなると思いますし，そういったことが定着してしまいますと，和装文化というものにとって，非常に大きな危機を迎えるんではないかなと。

さらには，日本人である私たちの立ち居振る舞いとか，それから日本のよき文化が，この１８歳になることによって風化してしまうんではないかなという，そういう危機感も抱いています。そういった意味で，私たち写真館は，ほかの七五三とか，あるいは大学の卒業式の袴とか，和装文化を記録に残すことによって，人生の和装文化の形を後世に伝えていく，そういった大きな役割を写真館は担っているんだというふうに自覚しておりますので，１８歳で成人式を行うことは非常に，その和装文化にとっても，着物の文化にとっても，

日本のよき文化が風化する可能性が非常に高いと危惧していますので，どうか１８歳で成人を迎えましても，２０歳で，式典はお酒を飲める，本当の意味で大人になった２０歳で今後も継続していただけるよう，業界として強く希望するものでございます。

そんなことで，ひとつよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

○法務省民事局　ありがとうございました。

それでは，続きまして，米倉様，よろしくお願いいたします。

○中央区新成人のつどい実行委員会ＯＢＯＧ会　よろしくお願いします。

変わりまして，米倉美寿々と申します。中央区新成人のつどい実行委員会ＯＢＯＧ会，今年度の会長をさせていただいております。本日はこのような機会を設けてくださり，ありがとうございます。

時間が限られておりますので，早速進めていきたいと思います。

私たち中央区新成人のつどい実行委員会ＯＢＯＧ会，通称いろは会という名称になっておりますが，全員成人する年に，中央区の成人式を運営する実行委員だったメンバーで構成されております。かくいう私も，２０歳のときに成人式の実行委員会に参加し，ほかの実行委員と協力して成人式の企画を行ってまいりました。ＯＢＯＧ会では，現役の新成人実行委員へ助言をしたり，成人式当日の企画ほかを行います。また，成人式以外の中央区の青年リーダーとして，地元を活性化するべく地域ボランティア活動を精力的に行っています。

次のスライドにお願いします。

中央区の成人式ですが，二部構成になっており，第一部は着席した状態で区長，来賓の方からの祝辞，現役の実行委員のスピーチを聞きます。第二部では立食パーティーの形式になり，食事をしたり，旧友と話しながら，実行委員が企画したアトラクションに参加します。アトラクションは，クイズや抽選会を行う年が多いです。実行委員会は，主に第二部の企画を検討するため，成人式が開催される前の年の５月ごろから活動を開始します。

次のスライドにお願いします。

成人式までの流れですが，４月から５月にかけて現役の実行委員の募集。中央区は，中央区に在住している方にはがきをお送りして参加者を募ります。５月中旬から９月ごろに準備会を開催し，成人式当日に行う企画の検討を行います。９月以降は実行委員会が立ち上がり，本格的に成人式の準備をしていきます。リハーサルを行い，成人式本番，２月には反省会を行い，その年度の実行委員会は終了するといった流れです。

今回，いろは会のメンバーに１８歳，２０歳で成人式を行った場合のメリット，デメリット等の意見を募集しました。

次のスライドにお願いします。

まず，１８歳で成人式を行った場合です。メリットは，親元を離れていない人が多いので，成人式のために発生する交通費の負担が少ない。当日着飾らなくても，学校制服で参加してしまえばいいので，各家庭の経済的負担が軽減する。飲酒を２０歳からという法律がキープされるのであれば，現状成人式後の同窓会で横行している未成年者飲酒の問題は，１８歳成人であれば激減すると思われます。

デメリットは，例年どおりの１月開催では，受験を控える高校３年生には出席すら難しい。

親元を離れていない，イコール，そのときの居住地の自治体の成人式に参加するしか選択肢がない可能性が高い。仮に学校制服での参加が定着した場合，関連業界へのダメージが大きい。成人式の実行委員会に携わる場合に，高校生活，受験勉強の両立が難しい。家庭にとってのメリットは大きいですが，関連業界が受けるダメージは大きくなります。

デメリットの四つ目ですが，先ほどの成人式までの流れを参考にしながら，中央区の場合をお話ししようと思います。

一つ前のスライドをお願いします。

準備会までは，月２回のペースで集まって週末やりますが，成人式当日が近づくにつれて，集まる頻度も多くなります。スマホなどの連絡手段が充実している現在でも，成人式では，ステージに上がってクイズや抽選会等の企画を進行していくので，実行委員で集まって何回も動きの確認，司会の掛け合いの練習をしなくてはいけません。年末から成人式本番にかけては，ほぼ毎日集まって練習する年度がほとんどです。年末から成人式本番にかけてというのは，大学受験を控えた新成人にとっては，とても大事な時期です。また，成人式の行われる１月は，インフルエンザや風邪になりやすい時期でもあります。成人式に参加したら，そこでインフルエンザや風邪が移り，万全の状態で受験することができなかった，そのような最悪の事態を防ぐために，成人式に参加する人数がどんどん減っていってしまうと思います。

２個先のスライドをお願いします。

では，１８歳で成人式をするなら，どの時期がいいのか。ゴールデンウイークに開催するのが望ましいと考えられます。これは，受験生が参加できるぎりぎりのラインかと思います。例えば，高校進学時に引っ越したら，成人式を機に中学の同窓生に会いたいと考える参加対象者がいた場合でも，連休中であれば，家族旅行を兼ねて以前住んでいた地域に行ける可能性が出てくるかと思います。また，高校３年生というのは，就職するにしても進学するにしても，スーツや塾にお金がかかり，保護者の経済的負担が最も大きい時期であります。現在の振り袖や紋付はかまを着る成人式のスタイルを改めて，式自体は学校制服等での参加を原則とする質素なものにシフトしていくのがいいかと思います。ですが，関連業界には耳の痛いことかと思います。

いや，ここは，国民の祝日が成人の日という名称で１月に決まっている限りは，１８歳の１月に行うのが自然だという意見も出ました。

すみません，次のスライドにお願いします。それで大丈夫です。

ただ，１８歳の１月は，まだ高校生であることや，センター試験などの受験者が多いこと，学校によって，髪色やメイクに規制があることが多く，満足のいくドレスアップができない人もいること，部活や模試などで参加できない人もいることを考えると，式典自体の実施を見直すべきではないかという流れになってしまいます。

では，一層成人式を実施しないという案も出ました。その場合，税金，年金，自治体の給付金の案内などで，学校では詳細に教えてもらえない物事などをパンフレットにして，各自治体から各新成人のいる家庭に送付したほうがいいのではないかという意見も出ました。成人式の式典をするにしても，こういったことは大事なので，ＱＲコードで飛べるものを用意するなど，検討してもよさそうに思います。

しかし，どの流れにおいても，関連業界への影響は大きいかと思います。

次のスライドにお願いします。

次は，今までどおり２０歳で成人式をした場合のメリット，デメリットを改めて考えてみます。

まずはメリット。それぞれの交友関係に応じて，出身地なのか，現在地なのか，参加する場所を選べる。一度その地域を離れた人が，成人式を機会に帰省し，同窓生と交流することで，Ｕターン就職するモチベーションの一因となり得る。

次にデメリット。帰省や衣装等，各家庭の経済的負担が大きい。成人式後の同窓生における未成年飲酒の問題は，別の対策を講じないと解決しない。

メリットの二つ目，これは大変大きなメリットだと考えております。というのも，私たちいろは会は，ほかの地方自治体の成人式実行委員ＯＢＯＧ会との意見交換会を年に１回開催しております。去年，静岡市のＯＢＯＧ会と意見交換会を行ったのですが，東京の大学に通っていたが，成人式がきっかけで地元で就職することを決めたというＯＢの方がいらっしゃいました。

次のスライドお願いします。

日本が将来的にコンパクトシティに経済圏をまとめる方針なのか，各地域の特性を生かし各経済圏を盛り上げる方針なのかによりますが，現政権が掲げる地方再生のスローガンに合致させるのであれば，若者のＵターン誘致は外せません。成人式という機会を生かせると考えれば，一度進学等で地元を離れる人が増えている，かつ，現役で進学した４年制大学の学生が，進路の方向性を決める２０歳の冬という現行の時期は，とてもいいタイミングかと思います。

次のスライドお願いします。

成人式は，先ほどもお話があったとおり，埼玉県の青年祭がルーツと言われております。ただ，当時は若者たちを励ます若者のお祭りであり，明確に２０歳とはなっていません。そのルーツのとおりにするならば，２０歳時に開催しても１８歳時に開催しても意図は変わらないのではという意見も出ました。

次のスライドにお願いします。

双方にメリットもデメリットも当然ありますが，１８歳で成人式を行うなら，現在の成人式のスタイルでは，家庭の経済格差によって出席率に差が出るであろうことを考慮するべきであります。成人とはいえ，１８歳でも２０歳でも，現在多くの人が親の保護下にあることを忘れてはなりません。保護者どうしの見栄の張り合いに，せっかくの晴れの日を迎えた子供たちが巻き込まれるようなことは避けなければなりませんし，経済的理由で成人式に参加できなかった人が，仮に高校生で，その後の高校生活をどれだけ楽しめるだろうかということを想像してみてください。

いろは会のメンバーからは，成人式に欠席，もしくは１人だけ粗末な格好で参加した後，何事もなかったようにクラスメートの前に戻れる気はしないと意見が出ました。中学，高校時期の特定コミュニティーに対する依存度の高さをぜひ事前調査して，検討会の資料としていただきたいです。また，成人式に参加できるのは１回としながらも，１８歳から２２歳くらいのまでの都合のいい年に参加できるくらいのフレキシビリティーがあったほうが平等かもしれませんが，マイナンバーを活用してもなお管理が難しいため，非現実的だという意見も出ました。全体的に見ますと，１８歳より現行の２０歳で成人式を行ったほ

うがいい点が多かったです。

最後に，私は，成人式というのは，自分を支えてきてくれた周りの人たちに感謝し，新たな一歩を踏み出す開始となる日にちだと思います。また，私が現役の実行委員だったとき，参加した人の思い出に残るような，成人式に来てよかったと思われるような大切な一日を作り上げたいと思いながら，成人式の企画を行いました。ＯＧになり，現役の実行委員を支える立場になった今でも，その思いは変わりません。主役は，ＯＢＯＧではなく，関連業界でもなく，自治体でもなく，国でもありません。新成人たちが主役です。私たちは，あくまでもそこを前提に，主役の新成人たちが参加しやすい，かつ，大切な１日を守っていけるように，私たちでサポートしていきましょう。

以上で，いろは会からの意見発表とさせていただきます。

御清聴ありがとうございました。

○法務省民事局　ありがとうございました。

それでは，最後に上田様，よろしくお願いいたします。

○京都市子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部　京都市の上田でございます。

資料５－１からとなっておりますが，まず，ヒアリング項目の要点がありますので，これを説明させていただきます。

「京都市成人の日記念式典～はたちの集い～」という名称で実施をしております。

成人式を行うことの意義については，成人に達した青年の門出を市民全体で祝い励ますとともに，新成人に対して主体的に行動する市民としての自覚と今後の積極的な社会参加を促し，夢と希望と活力あふれる未来の京都を創造することを目的に開催しております。

成年年齢が１８歳に引き下げられた後の成人式の対象年齢や時期等についてでございますけれども，これについては，１８歳での成人式開催は，参加者の多くが大学受験や，または就職といった人生の選択を迫られる極めて多忙な時期であり，参加者本人だけでなく，家族も含めて落ち着いた環境で式典を祝うことは困難です。国民皆で二十を祝うため，参加者が落ち着いて式典に参加することができ，家族や旧友，地域社会とのつながりをしっかりと確認することができる二十での成人式開催を国の基本方針とするよう，議論及び検討を行っていただきたいというのが，要点でございます。

以下，資料に基づきまして補足を説明させていただきます。

資料５－２でございます。こちらは，二十での成人式を国の基本方針とすることの要望ということで，京都市長の名前でこの分科会に出させていただいているもので，恐れ多いんですけれども，出させていただいております。

成人式は確かに，開催時期に関する法的根拠がございませんが，また，このような中で民法改正で成年年齢が下がると，自治体ごとに開催時期が異なる等のことで，さまざまな影響が生じると考えております。各自治体いろんな工夫をして成人式をされています。京都市でも，書いていますように，市民参加のもと，これを一番大事にしているんですけれども，そういう趣旨で成人式を改革してまいりまして，この２０年で参加率も２倍に向上しております。市民全体で二十を祝う機運が高まっているところでございます。

１８歳での式典の開催につきましては，式典への参加者本人だけではなく，家族を含めて，落ち着いた雰囲気，環境で成人を祝うことが困難ということでございますので，要望としましては，全国的にこれが標準になっていければ有り難いなと思っておりますので，よろ

しくお願いしたいと思っているところでございます。

それから，次の資料５－３ですが，これは，二十の式典を継続しますということで，市民向けに最近作らせていただいて，京都市ではこの方向でさせていただくということを，市民の皆様にもお知らせしている資料でございます。最初に書いていますように，出身中学校ごとに母校・恩師からのメッセージを掲示する「はたちの集いコーナー」を設けるなど，厳粛な中にも温かみのある成人式をやっております。その写真も一部載せておりますけれども，このようなことから，地域社会とつながりを確認できるはたちの集いということで，今後も継続していきたいと考えております。

次に，資料の最後のほうですが，京都市成人式ニュース，今年の１月の成人式をまとめたニュースでございます。先ほどの東京都中央区さんの内容とも一致している部分がございますけれども，簡単に説明させていただきます。

まず，１段目が，「多数の新成人が参加し，旧友との再会を楽しみました」ということで，７，５４５名の新成人が参加しております。京都市内で新成人１万４，９００，その約５０％が参加しております。京都は，特徴としまして，大学生がたくさんいらっしゃいまして，通常１万人程度の各年齢層が約１万５，０００人，二十を迎える大学生等がかなり多いということでございます。そういう特徴がございますが，また次のように，優雅な音色と華麗な踊りで新成人をお迎えするということで，京都市立芸術大学生による演奏，そして京小町踊り子隊ということで，希望に応じて踊っていただくような準備もできております。また，新成人の舞妓さんが舞を披露していただきまして，そのような中で成人式が始まってまいります。そして，厳粛な会場の中に市歌，国歌ということで，続きまして京都市長も御挨拶をさせていただきまして，市会議長からの挨拶もさせていただきまして，さらに，下の行にありますように，新成人代表による二十の誓い，二十を機会に自分はこんな活動をしています，こんなことをしたいですというようなメッセージを募集させていただきまして，そのような中から，代表して４名の方に，二十の方の想いや，家族への感謝も含めて新成人皆の前で発表してもらっています。

次に裏面でございます。第２会場の様子というページでございます。先ほどの式典と同じ会場なんですけれども，階を違うところへ持っていきまして，後半は楽しくやっていただこうというのが中心になっております。若さあふれる力強い踊り，これは，大学祭典という大学生の祭りで活躍されている踊りのチームに踊っていただきまして，はたちの集いコーナーでは，先ほども言いましたけれども，母校・恩師からのメッセージを，自分の出身中学校のところに集まって見ながら，その後，同窓会的な雰囲気にもなってというようなことがございます。また，ボランティアの皆様ということで，さまざまなボランティアの方が参画いただいております。

それで，要員としましては，市職員が１００人ぐらいなんですが，ボランティアの方が２００人以上集まっていただいておりまして，こういうコーナーの方も含めて，いろんな参加者を含めて５００人ぐらいの方が，いろんなお手伝いをしていただいております。例えば，裏千家青年部の方によるお茶席でありますとか，地元の学区の皆さんによる振る舞いもち，振る舞い酒は出しませんけれども，おもちは振る舞っていただいておりまして，学校給食を懐かしく食べていただくコーナーであるとか，またいろんな青少年団体が活動をＰＲするコーナーであるとか，当然選挙のＰＲをするコーナー，いろんなコーナーを設け

まして，楽しんでいただきながらという成人式にしております。

また，それ以外にも，下の欄にありますように，おめでとう，ありがとうの手紙ということで，二十を迎えられた新成人のお手紙，感謝の手紙，あるいは，それをお祝いする家族のお手紙等を募集しまして，それをホームページに掲載する等して，皆さんで二十を祝うという雰囲気を盛り上げております。

また，１／２成人式ということで，１０歳，小学校４年生の子供たちに，それぞれの学校でも，自分が二十になったときにどんな大人になりたいかという作文を作っていただいて，それをタイムカプセルに入れたりというような活動もしてもらっているんですけれども，この成人式の会場にも１０歳の１／２成人に来ていただきまして，新成人をお迎えするパンフレットなどを渡していただく，やんちゃなお兄ちゃん，お姉ちゃんも，子供たちにもらって，にこっと笑って入っていただくというようなことをやっております。

また，思い出成人式ということで，仕事や家庭の事情等で成人式に参加できなかったけれども，参加したいという方も参加いただいておりまして，自分は当時，二十のときに貧しくてスーツが買えず成人式に出られなかったけれども，３０歳になってまた出たいというよう方もいらっしゃいまして，そのようなコーナーを設けているということで，市民みんなでお祝いする成人式という形にしているものでございますので，家族や地域の方も一緒に新成人を落ち着いて励ませるはたちの集いということで，これからも続けたいと思いますし，全国的にそうなっていかないかなと思っているところでございます。

以上でございます。

また，すみません，一つ報告しますけれども，最近，１０月に政令指定都市の大都市会議でもこの話題が出たんですが，それぞれの都市でも検討中ですということですが，伺っている途中ですけれども，二十の方向でいきたいという意見が多かったというのも，新たな話としては出ております。

以上でございます。

○法務省民事局　どうもありがとうございました。

４名の参考人の方々，本当に本日は貴重な御意見をちょうだいいたしまして，どうもありがとうございました。

以上で，ヒアリングの参考人の方々からの意見聴取は終えることとしまして，次に，それぞれ御出席の皆様から，ヒアリングを踏まえて御自由に御発言いただきたいと思います。

○全国市町村教育委員会連合会　全国市町村教育委員会連合会でございます。原と申します。

私のほうも，前回１０月に集まる機会がありまして，その中で聞いたところによると，検討中であると，それと，あと他県の市の動向を見てから，京都市さんからのお話のとおりでございました。あと，中央区の米倉さんからあったように，やはり成人式を迎える者にとって，その日が有意義で，また親族や関係者にとって，関係市町村も同じですが，そういう方々にとっても，成人式の意義等について十分伝わるような式になってくれると有り難いかなと，我々の立場からも思っているところでございます。

デメリット，メリット，それぞれありますが，非常に，１８歳に移行して実施しようとすると，やはり課題がどうしても多く見えてくるような感じがしております。ただ，それは，地方自治体がやはり最終的には決めるものですので，そのデメリット，メリットをまたこういうところでお話ししていただいたことに，大変有り難く思います。

以上でございます。

○文部科学省　文科省です。

ありがとうございました。

京都市さんと，お分かりになれば中央区の米倉さんと，もし可能であれば，奥山さん，堀さんにもお聞きしたいと思います。地域でみんなでお祝いするというのが非常に大きいということで，先ほどＵターン就職の話も出ましたが，京都市さんの場合，１万５，０００人ぐらいの新成人がいらっしゃるということでしたが，住民票台帳に基づく市内の新成人の方に御案内を出されているのか，例えば，中学，高校時に京都市に在住されていた方に御案内を出されているのか，両方に出されているのか。先ほどもあったように，地方創生という意味では，一旦京都を離れた方もいらっしゃる一方で，大学進学を機にほかの地域から京都市さんに入る方もたくさんいらっしゃって，そういう方に京都で就職してもらうという方向性もあると思うのですが，その中で，御案内はどうされていて，実際，実態として参加者はどんな感じなのかということを教えていただければと思います。

あと，地域といったときに，ちょっと中央区さんが１学年どのぐらいいらっしゃるのか分からないんですけれども，中央区さんぐらいの規模の地域と京都市さんのような７，０００人の規模では差もあるのかなと思います。現に京都市さんなりが，中学，高校単位で恩師の手紙を紹介するという話もありましたが，もう少し小さい単位で何かコンパクトに式があったりするのかどうか。例えば，我々は社会教育を担当していますので，公民館で地域の成人の集いというふうなものもあるかもしれませんが，そういった地域の規模感として，どのように捉えられているのでしょうか。

○京都市子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部　まず，京都市では，二十の住民基本台帳をもとに，９月に案内はがきを送ります。ただ，実際には，往復はがきで１１月に申し込んでくださいとしつつ，市内全域にポスターなどを張って，はたちの集いが今年もありますよという形で，応募してくださいねというのをＰＲしています。といいますのは，大学生の方，住民票を京都に移さずに暮らしている方もいらっしゃいます。でも，そういう方も参加をしてほしいですということで，はがきだけでなく，いろんなところでＰＲをして，住民票がない大学生の方も，あるいは京都から出ていっていらっしゃるけれども，帰ってきて参加されるという方も，どうぞ参加してくださいということで，広く参加を呼びかけているところでございます。５０％というのが，率が高いかどうか分からないですけれども，だんだん参加率は増えてきているかなと思っております。

それから，規模という意味では，やはり７，０００人でございます。午前と午後の部に分けて，４，０００人弱と３，０００人強を誘導しますので，その何千人の誘導のために，会場の周辺の警備であるとか，スムーズに動くために警察にも御協力いただいて，そのあたりも，私たちのテーマでもあるんですけれども，市民全体でお祝いするという趣旨で，京都市では市一括した成人式をやっております。他の指定都市さんでは，確かに行政区ごとにやっていらっしゃるところも一部ございます。そして，京都市でも，市全体でやった後，各行政区に何か二次会的に集まってまたやろうかとか，またいろんな地域ごとにやろうというようなところもありまして，全体が集まる場と，それ以外の地域での場も，それは，各区とか状況によって違うんですけれども，いろんなところでのお祝いはしていただいている。あるいは，各業界であるとか，業務団体でもいろんなお祝いはしていただいて

いますというような状況でございます。

○中央区新成人のつどい実行委員会ＯＢＯＧ会　中央区のほうは，新成人のつどい実行委員会メンバーに入るのは，４月１日時点で中央区に在住している，二十になる予定の方にお送りしています。正式な成人式の通知というのも，１２月ごろから，たしか４月１日現在で在住している方と，追加で増えた方も含めて，全ての方にお送りしているという形になっています。

小さい単位で式があるのかというのは……

○文部科学省　中央区さんの場合は，中学校も三つか四つですよね。

○中央区新成人のつどい実行委員会ＯＢＯＧ会　そうです。中学校四つあるので，その四つごとに中学校の同窓会という形で，成人式が終わった後に集まっているところは多いです。

○文部科学省　それは，自主的に。

○中央区新成人のつどい実行委員会ＯＢＯＧ会　自主的に，卒業生が企画して行っています。

○全国町村教育長会　中央区にしても京都にしても，それぞれの具体的にお話しいただきましたけれども，教育委員会の主催とか首長部局との関係はどうなっていますか。

○京都市子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部　京都市のほうは，一昨年度までは教育委員会主催でやっていたんですが，京都市では組織改正しまして，子ども若者に関する施策を子ども若者はぐくみ局という新しい局を作って担当しておりますが，教育委員会も共催で一緒に参画されていますし，そして，青年団体も共催で，３者が共催でやっているという形でやっております。

○中央区新成人のつどい実行委員会ＯＢＯＧ会　中央区のほうは，教育委員会からまた別の部局，中央区，多分生涯学習課が主催して，成人式事務局があって，そこで主催で行っています。

○厚生労働省医薬・生活衛生局生活衛生課　厚生労働省の比嘉と申します。

生活衛生課と申しまして，美容業を所管する立場です。業界関係者の奥山会長，堀理事に教えていただきたいのですけれども，経過措置等々考えられるとは思いますが，例えば成人式が１８歳になった初年度に，１８歳，１９歳，新１８歳，新１９歳，二十の方が一度に成人式を迎えないといけない可能性があるわけですね。そのときは，需要がものすごくありますし，そのために準備をしようとしますけれども，翌年からまた３分の１に減るわけですよね。その点について，どのようにお考えか。

今回，お話しいただけると思っていたのですが、なかったのでどういうふうにお考えなのかなというのを教えていただければと思います。

○日本きもの連盟　現実のお話でいきますと，今の問題，実は地方において，もう既に目先まで来ているということで，恐らく３学年が一緒ということはまず不可能に近いということが，受け皿のキャパの問題ではなくて，いわゆる，残念なことに，着物を自分で着られる家庭がまずほとんどない，髪も自分でできる状況にはないと。そうしますと，業界こぞって，皆さん連携プレーをして手当をするわけですね。ですから，例えばこういう問題が起きたんですけれども，私，高松市に務めたりしていますが，高松市では，いわゆる第２月曜日の成人式というのを，日にちを，本人たちの意見を聞いて，月曜日だと，もうすぐまた帰らなきゃいけない，夜みんなと楽しく遊んでも，すぐ帰らなきゃいけないのを，何とか日曜日にしていただいて，たくさん，いわゆる成人をお祝いをして，月曜日はゆっくり

帰省したいだの，また学校のほうへ戻っていきたいという関係から，例えば今の時期，じゃ再来年から日曜日にしようじゃないかという動きが実はあったんです。

そのときも，高松市も実は同じような，恐らく中央区と同じような組織でできているんですけれども，引き合わせがまいりまして，とても不可能だ。１年の前に前倒しをしてくれと言われたときには，重なってしまうんで，もう，要するに，例えば，今現実で言えば，来年の１月第２日曜日の形でいろんなところに手配をしているということが，まだ手配していないという人はもうあり得ない。今日現在，例えば，急遽お願いしますといった場合に，頭から何から全部してほしいといった場合には，恐らくあいている時間は朝の４時半とかで，成人式が終わってからでは話にならないとか，そういうふうに他人にお任せするというようなことが現実なんですね。よって，３学年を一緒にキャパがあるかとなりますと，恐らく手の問題がもう難しい。だから，商売上たくさん需要があるという問題じゃなくて，恐らくその辺のところの手配が，全ての手配がもう難しいんじゃなかろうなということが現実に起きています。

ちょっとあれなんですけれども，この参考資料の中の一番後ろのほうに，せっかく示していただきましたんで，二十の成人式がよい理由といいますか，国民の声のアンケートということがあるんですけれども，実は，２０１７年度に我々呉服業界が，自分のところのお店に来た人たちの当事者に聞いたアンケートになっております。これ，実は一斉にやってもらったんですが，全部を統括することはなかなかできなくて，これ，一つの大きな，ちょうど中間のところがあったんで，それを参考にしようとして二百数十名の人たちの参考資料という形で伝えさせてもらったわけですね。このときの状況でも，いわゆる二十のままのほうがいいという方が８３％で，１８でもいいんじゃないのということは４％，あとの方は７％，６％の方はどちらでも，分かんないというような方。ただ，８５％ぐらいの方たちが，やはり二十のほうがしてほしいなというような形がやっている。その理由も右のほうに書いてございます。そして，一番後ろのほうにも，先ほど京都のほうからも出ました１／２の成人式とか，そういう人生の節目節目を楽しんでいるというところに対しても，非常にこういう問題がデータ的には出ております。ただ，全部を出せとかいうと，また出てくるんですが，現場としては，やはり二十のほうがふさわしいんじゃないかなと。

それから，先ほどの御質問のほうで，高松，香川県というのは日本で一番小さな，いわゆる面積では小さいわけですが，島があるんです。島も，皆さん御存じ小豆島とか，産廃で有名で豊島とか，いろんな島があるんですが，私らも面白く見ているんですが，もう５００人来ますと，女性３０名，男性２３名の成人式というのは現実に行われております。そういう人たちが，いわゆるそういうメンバーもやっぱり来ますので，聞きますと，１８じゃねと，やっぱりお互いが地方に行ったり，いろんなところに行って，また島に戻ってきて，お互い二十でよかったねというのは喜びあるということが，非常に人生の節目にもなっていると。小さいところは小さいところですごく，逆に，市のほうですと２，０００人強のメンバーが集まりますけれども，もっと小さいところは，本当に何十人単位でやっておるというところがありまして，その辺も聞きますと，やっぱり１８はまだ，何か昨日まで机並べたメンバーで，何のお祝いというような気持ちになっちゃうので，やっぱり二十の節目でやっていただきたいなというのが現実にあったということも，ちょっと申し添えておきます。

○協同組合日本写真館協会　大体同じようですけれども，１８，１９，２０と，これが同時に行われた場合のことを考えますと，そのときの当事者の方々は，着物を着たいという気持ちがあった場合には，非常にかわいそうといいますか，気の毒な結果になるのかなというふうに思います。と申しますのは，例えば，一番大きいのは着付けの問題だと思うんですけれども，きっちり帯が結べる着付けのできる美容師さんというのは，そんなに多くはないんですよ，現実問題。ですから，我々もこの成人式当日に関しては，美容師の確保とかというのは常に大変な大きな問題ですし，前から人を確保している状態なんですね。これが単純に３倍になったとすると，まず，皆さんが同じように需要があったら，ほとんど着物を着るということに関しては，大変な争奪戦になってしまうのかなということは予想されます。

もちろん，着物自体も選べる量が限られてくるということもあると思いますし，写真館は夜でも撮影すると思えば，現在は撮れるのかもしれませんが，一番大きいのはやっぱり着付けの問題だと，私は考えます。

○法務省民事局　私のほうから，上田参考人にお伺いしたいのですが，確かに１８歳の１月だと，受験などがあって，なかなか参加できないということはあろうかと思いますけれども，例えば，１８歳にするけれども，３月なり５月なりにやるといったことをもし検討されたのであれば，その辺りの検討状況も教えていただけないでしょうか。

○京都市子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部　明確な検討をしたということではないんですけれども，やはり１８歳という年は，若干月を変えたとしても，多分落ち着かないところだと思いますので，二十の年代のほうが落ち着いて，市のほうも，ある程度安定しているところでいいんじゃないかという意見が多くあったということでございます。

○全国都市教育長協議会　先ほどの１８，１９，２０を来年やるとしたら，１８歳の成人式を想定しているところですよね。二十じゃなくて１８歳というものを想定するから，そういうふうなのが１年間出てきちゃうことなので，それは特別なことかなというふうに思っていますけれども，ただ，１８歳の成人年齢ということが決まっているわけですから，その１８歳になった子供たちは，１８で成人だという意識を持つわけですよね。大きな気持ちとして，俺たち大人になったんだという気持ちがあるわけですね。

それが，１８歳で成人年齢を迎えていながら，成人式は二十だよとなったときに，その子供たちはどういう反応をするのかなというのが，ちょっと不安なところもあるんですが。

○日本きもの連盟　１８歳で成人になったんだよといったのは，実は子供たちは，言葉がちょっときついですけれども，押し付けでありまして，子供からすれば，まだ高校生であるという自覚しかないんですよね。１８歳は選挙権がとられますということは，もう認識しているはずなんです。ただ，成人であって，民法上成人になったから，これから始まると思うんです，いわゆる責任を持って自分たちで買い物もできますよとか，そういう問題はこれから出ると思うんですけれども，今現実，私たち，本当に毎日のように今，１８，２０の方に会っているんですけれども，とてもとても１８で成人になった，そういう自覚があるということよりも，何か選挙権が来るんだよねっていう自覚ぐらいしか，正直言って持っておりません。相当，国のほうから１８が成人ですよという意識を並行して教育していかなければ，今騒いでいるのは，今言ったように，１８歳になって成人と言われたけれども，成人式はどうなるのって，単純な問題だけなんですね。そうすると，今京都さんのほ

うがおっしゃっていただいたように，お祝い事としては，私たちは二十でやっていただきたいと。二十という節目が，一番やっぱり人生の中でふさわしいんじゃないかというのは，意見が非常に強いということが，私は業界の欲望で言っているんじゃなくて，現実の子供たちの意見を聞いたときですね，そういうふうに伝わってきました。その辺については，率直なところ仕事として，子供たちには，それは確かに植えつけなきゃいけないことだと思うんですけれども。

○全国市町村教育委員会連合会　２０歳になれば，いろんな責任とあわせて権利が出てくる。だから，最終的には成人を２０歳という見方をしている，しかし，１８歳で選挙権を持つということは，社会に対して責任を持つということですから，そうすると，成人とみなされているのに，片やまだ成人ではない。このギャップは，やはり高校生初めあるかと思うんですね。もし、そういういろんなことがクリアできるなら，一緒に１８歳で成人ということでお祝いするのも一つの考え方ですね。ただ，そうすると時期については考えなくてはいけないのか，私は個人的に思っています。

例えば，３年分を一緒にやるんじゃなくて，例えば、教育課程を動かすときの移行措置をとるようにすると，３２年度が２０歳，１９歳の人が行い、１８歳の人は１９歳になったとき１８歳の人と一緒にやる。借りる人と返す人の関係で、２学年の人が続けて日にちを取るのは難しい。そうすると，当然時期をずらして行う方法もある。例えば，現在でも、１２月にやっているところもあり，１月にやっているところもある，また，夏休みや、お盆に故郷に帰る，そのために成人式をやっているところもあります。だから，そういうのを考えると夏に行えるところもある。成人式の日に新成人者を地域みんなでお祝いし、大人として迎える。その辺は工夫して，３３年は１９と２０で，３４年度から１８歳に移行する，そういう手立てもないわけではない。しかし、先に言われたように着物の手配，それからその関係の産業が，それに産業界の方々が応じることができるかというと，なかなか応じることが今の状況ではできないのかなと考えると，先ほど京都市さんが言われたように，またきもの協会の方が言われたように，また写真屋さんなんかもそうですけれども，かなり前から予約しておかないと，また、このような技術を持っている人って少なくなってきています。

もう一つは，個人的な意見ですけれども，例えば京都，観光地区，着物を外国人が着て歩く姿を見ると、日本の文化として大切に残っている部分がある。成人式と同様に大事にしていけたらいいですね。お祝い事などの日に着物を着るというのは大切です。大切な日本の文化の一つになっていると，個人的に思います。

○日本きもの連盟　ただ，その辺のこととか，いろんなことで，すごい中途半端な印象を持っている方が多い。ただ，そういう意味では，多分お酒は絶対に今までのようにならないと思いますので，そういう意味では二十という形が，心身ともに社会に大人として認められるにはふさわしい時期なんだろうなという意見がかなり，私が聞いている限りではあると思います。

ですから，そんなに１８歳になった，責任ができたから，ここだっていうタイミングでは必ずしもないような，そんな印象を私は受けているので，１８歳で選挙権を得ても，成人の式典は二十という形が，そんなに違和感なく世間の中で受け入れられるんではないかなという思いが，私にはございます。

以上です。

○京都市子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部　既に１８歳で成人の自覚を持っていてというのは大事なことだと，そのとおりでございまして，選挙権が１８歳のときには政治教育をしっかりやっていったりとか，民法が変わることについて消費者教育を高等学校でしっかりやるのはもちろんですし，京都市は勤労青少年ホームから衣がえした青少年活動センターというセンターも７カ所ありまして，大学に行っていない，高校に行っていない子供たちも含めて，いろんな取組をやっています。そんなところでも，政治教育だとか消費者教育，そういうこともしっかりやっていきたいということは思っております。

○法務省民事局　ちょっと観点が違うのかもしれないのですけれども，成人式を行うことの意義についてどのように考えるかということについて，事前にヒアリング項目として出させていただきましたが，米倉参考人からは，自分を支えてきてくれた周りの人たちに感謝し，新たな一歩を踏み出すという御意見をいただいていますし，上田参考人からは，主体的に行動する市民としての自覚と今後の積極的な社会参加を促す，そういった意義が指摘されております。それは全くそのとおりだなというふうに思うのですけれども，こういった観点から見たときに，１８歳で行うのがいいのか，２０歳で行うのがいいのかという問題もあるのかなという気もします。

米倉参考人の御意見をうかがってみたいと思いますけれども，例えば，自分が育ってきた，そういうことを振り返って，周りの人たちに感謝する，そういった意味での成熟度というものを考えたときに，１８歳は，もちろんこれから大人として責任感を持って，実際に社会に一歩を踏み出していくんだけれども，まさしく一歩を踏み出そうかという瞬間なわけですから，むしろそこから一，二年たってみて，実際に大人として２年間，例えば，ひとり暮らしをしてみるとか，そういう経験があったほうがこういった成人式としての意義をより深く感じられるというようなことがあるのか，いや，別にそんなこともないのか，その辺り，感覚的なものになるのかもしれませんけれども，いかがでしょうか。

○中央区新成人のつどい実行委員会ＯＢＯＧ会　何か私が成人したときは，本当に個人的な話なんですけれども，もともと持病があって，すごい昔からいろんな人にお世話になったから，こういう成人式で改めて，２０年も生きられたということは，すごいことなんだって思って，やっぱり改めて親に感謝しないとなって，そういうふうに思ったんで，ほかの人は，仮に１８歳で成人式になったとしたら，でも，やっぱり１８歳，成人したから周りの人に感謝っていうふうに考える人もいるのかなって思うし，そのまま式典として思って，そのまま出ちゃう人もいるだろうし，何とも……

○中央区新成人のつどい実行委員会ＯＢＯＧ会　それぞれの感覚なんだと思います。

○法務省民事局　これも感覚的なところかもしれないのですけれども，成人式の一つの意義として，久しぶりに昔のお友達に会い，高校まで一緒にやってきた友達が，それぞれ少しずつ違う道を歩み初めて，２年たったところで，この２年間の近況とか，この２年間の成長をお互い確かめ合ったりとか，そういうことを一つの意義として指摘されるような方もいらっしゃいます。成人式の意義についてのこのような意見についてどのようにお考えか，仮にそのとおりだとお考えであれば，そのタイミングとして，つい先日まで一緒に机を並べていたというタイミングでやるよりは，少しそれぞれの経験を積んだ上で，お互いにその２年間を報告し合うような機会にするほうがその意義に合致していると思うのですが，

そういった成人式の側面について，どのようにお考えなのかおうかがいしたいと思います。

○中央区新成人のつどい実行委員会ＯＢＯＧ会　１８歳でそういう成人式をやった場合，やっぱりまだ高校が一緒とか地元が一緒だから，久しぶりという，そういう感覚があんまり感じられないと思うんです。やっぱり二十でやるということは，先ほども話したように，大学が東京とかほかのところにあって，久しぶりに戻ってきて，やっぱり地元はいいな，地元で就職しようかなという，そういうきっかけが見つかったりとかして，そういうことにつながるというのもあると思うんですよね。

中央区の場合は，やっぱり中学は四つしかなくて，高校もそんなに，都立は晴海高ぐらいしかないし，私立，中学までは一緒だけど，高校はみんなばらばらになっちゃうということもあるので，成人式を仮に中央区は１８でやったとしたら，やっぱり二，三年ぶりに会うという人もいたりして新鮮感はあると思うんですけれども，やっぱり５年ぶりに会う二十とかのほうが，何かもっとそういう久しぶり感が出るのかなと思います。

○京都市子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部　私も，教育委員会から１０年間ずっと成人式にかかわっているんですけれども，見ていますと，本当に久しぶりに会ったなというので，皆さん楽しみにしている人が多いんですね。二十というと，高校を卒業してから２年間たっていまして，半分以上の子は大学に行っていますから，いろんなところに行っています。働いている子も，いろんなところで働いています。二十で久しぶりに会うのが楽しみで来たんだというような子がかなりいる，それで楽しそうに集まってきている，半分同窓会的な気持ちで来ている子も多いという，副次的な意味だと思いますけれども，そういう意味でもいい時期なのかなというふうに思います。

○全国都市教育長協議会　今日は初めて聞きますけれども，成人というものをお祝いするといったら，やっぱり成人になった人をお祝いするということなので，やっぱりその節目みたいなものを大事にしたほうがいいのかなというのは，個人的には思います。

先日，うちのほうの役員会で話をしていたときには，話題としては，地域によってそれぞれ違うやり方でやっているんだから，どうしてもこう決めなきゃいけないということはないかもねという意見も出ていました。それから，１月にはもうやっていない地域も結構あるんだよねという話も，大分出ていました。ですから，やる時期がやっぱりそれぞれで違いますし，今現在１月にやっているのは，３月に卒業するまでにやっているのかな。二十になった人ということでやっているとしたら，１月で二十になった人。

○全国都市教育長協議会　年度ですよね。そうすると，まだ２月，３月の誕生日の１９歳も混ざっているわけで，どっちにしろ，くくり方はいろいろかなというふうに思うんですけれども。ですから，１８歳で選挙権がもらえて，本当に大人になったという自覚をしてもらいたいと思うし，その節目はやっぱり大事にしてもらいたいなというのは，ひとつすごく思います。そこで，やっぱり社会人としてきっちり責任感やら何やら，しっかりつけてほしいので，区切りだよというのが意識できるようなことが，やっぱり大事なんじゃないかなというのはすごく思うんですね。

ですから，せっかく，私が１８歳で選挙権がもらえるようになって，自宅のそばで選挙に１回は行けるということがもしあれば，すごくいいことだったなというふうに，その後選挙権が変わったときには思いました。二十だと，大体大学行っていたりして，まず選挙へ行くということはないんですよ。自宅のほうに住民票，私もそういうふうにしていました

ので，成人式も全く出ていませんし，眺めていました。自宅に帰るなんていうこと，そこでまた帰るなんていうのは難しかったですし，選挙もまず，行くことはできませんよね。二十になってからだって，大学へ行っていたら，選挙のときだけわざわざ帰って選挙をするってことも，なかなか難しいですし，大学で，住んでいるところで選挙権をもらえたとしても，住民票を移していて，そこの地域に余りなじんでいないのに選挙にというので，大学生はなかなか行かないかなというのもあるので，選挙に対する考え方としては，１８歳になって，地域で，例えば家族と一緒に選挙に行くことという経験を１回でもするというのは，すごく大人になるということで，大事なことを一つ一緒に経験できていいのかなというのをすごく思ったんですけれども，そのときに，やっぱりお祝いをちょっとしてあげるというのは，大事かなというのは思うんです。

１月に成人式しなくたっていいわけですし，１月にしなくていいよねというのは，結構うちの会では話題になりました。今だって，１月にやったって１９歳も混ざっているんだよねみたいな話も出ていたので，そうしたら，全員が１８歳になってから，どこかできっちりやる，それは，その地域にお任せでもいいんじゃないかみたいな意見も出ていましたけれども，過渡期ですので，どういう方向に行くか分かりませんけれども，本人たちが大人になった自覚をしっかり持てて，そのときにお祝いしてもらったという気持ちになれるような方向でできていくといいなというのを，一番にちょっと思います。本人たちはどう思うかなじゃなくて，本人たちはまだまだ分からない，二十の子も，成人式何回か行っていますけれども，ほとんどぎゃーぎゃー騒いでいて，友達と会えてわいわいしているという程度で，二十の子もほとんど子供のような状況かなというふうに思います。ですから，１８歳だから子供で，二十だから大人っていうのはちょっと，そこはあんまり関係なく，きっちり節目のときに，その子たちが，自分たちがこれから大人になって責任持たなきゃいけないという，自覚がきっちり持てるような節目の年というのをやってあげることが大事かなというふうに，私は思います。

○法務省民事局　今おっしゃった節目を重視するとなると，それはどちらがいいのでしょうか。

○全国都市教育長協議会　全員が１８歳になってから，どこかでやるという。二十まで２年間待たなくても，私はいいんじゃないかなというのを，将来的にですよ。ただ，過渡期で今は，何年間かは，どこの市もいろいろ考えて，いろいろされると思うけれども，将来的には，１８歳で選挙権ももらえて大人になったというときに，きっちり何か社会全体でお祝いが，その地域全体でお祝いしてもらえるみたいなふうに，本人たちが，ここでお祝いしてもらえて本当に大人だなというか，責任持たなきゃという意識になってもらえるようになるといいなって。

○協同組合日本写真館協会　今の御質問ですけれども，先ほどちょっと聞いていた中で，１８歳で式典で，ゴールデンウイークとかいうお話がちょっとあったかと思うんですが，そのときの印象では，その１８歳というのは，高校３年生のゴールデンウイークという印象だったんですね。つまり，高校生で成人式をやると。今のお話が，全員が１８歳になったということは，高校は全員卒業してからということですね。だから，ちょっと意見としては，先ほどとはちょっと違うということですね。分かりました。ちょっと質問でした。

○文部科学省　すみません，２回目で。

もう一回ちょっと京都市さんにお聞きしたいのですが，各自治体さんが検討されている中

で，京都市さんがいち早く結論を出されているので，差し支えない範囲で，検討プロセスについてお聞かせいただけないでしょうか。特に，若い人たちのための式なので，若い人たちの意見というのが大切だと思いますが，意見を聴くようなプロセスはあったのでしょうか。あと，もう一つ，さっき，１８歳で成年になるということと，でも，式は二十歳ということで，米倉さんの話の中でも，成人式をやらないにしても，いろんなパンフレットを送ったほうがいいとか，そういう話があって，京都市さんからも，政治教育等をやりますという話もあったんですが，式を二十歳にするときに，１８歳で何か区切りとなるようなことを，式とは別にやるような御検討とかがあるのでしょうか。

○京都市子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部　そうですね。このような，全市でやるような，市民みんなで盛り上げるようなイベントとしての式は二十がいいだろうということで，この内容を１８歳でやるのはとても難しいなという趣旨で，二十にしましょうという方向になってきたのではないかなと思っています。当然，１８歳というのはほとんどが高校生ですので，各高校等で何をしていただくのかというのは，いろんな，先ほども言いました消費者教育も含めて，それはまた今後検討していくことになるかなと思ったりしています。今のところ，何をするとかいうのは決まっているわけではございません。

もちろん，中央区さんの話もありましたように，二十のメリット，デメリット，それはあるとは思うんですけれども，二十のほうがトータルとして，今のようなお祝いという意味ではいいんじゃないかというような意見で，その方向にもなってきたということでございます。もちろん，市民の皆さんにアンケートをとったとか，そこまではやっているわけではございません。

○文部科学省　多分ほかの自治体さんも，どういうふうに決めていくのかって悩んでおられる可能性もあると思います。市長が決めたということでしょうか。

○京都市子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部　市長が自ら表明したということです。

○日本きもの連盟　実は，高松市も既に先月，２０歳でやりますという話が出ました。いわゆる審議会議長が中心になって行ったみたいですけれども。

○文部科学省　議会のほうでやられた。

○日本きもの連盟　ちょっと問題が起きましたらまずいなと思うんですけれども，現場のほうでは，１８歳が２０歳になったよということが突きつけられたという感じなんですよね。現場のほうで，シミュレーションのときにずっと，１８で成人になるのかなというんじゃなくて，法律的に１８歳，２３年に１８歳から成人ですよということを，どんと出されちゃったと。ですから，受け取るほうは，全然それ，えーっていうふうな受け取り方をしてしまったと。

この間，ちょっと言えませんけれども，大学の副学長とその話をしましたら，副学長，やはり文化人として聞かれたときに，１８歳の成人について賛成したんだそうです。ところが，傑作だったのは，大学生が１８歳でスポーツ部なんかが優勝したり何かしたとき，お酒を飲んじゃうと，すぐ問題になっちゃうと，それが。それが１８歳になってくれると有り難いことだということで賛成したのにもかかわらず，お酒は駄目だときたと。だったら，あれは賛成はしなかったという御返事が来たんですね。むちゃくちゃ面白いなと思いましてね。

ですから，現場のほうとしては，実はそんなに高校生たちも，選挙権は来たよということ

は分かったんですよね。ですから，それは，きょとんとして受けているような現実で。ですから，これから先が，１８歳は大人だ，本当にあなたたちは大人なんだよというのは，これから相当いろんな意味で検討していかなきゃいけない課題が残っているだけのことであって，今いろんなところで当惑しているのは，半世紀以上，二十のお祝いだよというか，どんどんそれが定着してきたという事実があるんですよね，薄れていったんじゃなくて。ある一時期的には，きらびやかにしちゃいかんからとか，振り袖なんかは着ないほうがいいんじゃないかとか，いろんな問題があった時代もあったわけですよね。そういうのを全部クリアして，今の時代を迎えたというところが，急に１８歳になるということで，今までやってきた，育んできたものが，法律によって１８になったから変えなきゃいけないのかなという，その大きな課題が突きつけられたというのが，今，正直なところ，現実問題として受け止めているわけです。

○法務省民事局　ありがとうございます。

ほかに何かございますでしょうか。大分質問とか意見，それぞれお出しいただきましたので，また本日のタイミングで出ました意見等も踏まえまして，引き続き検討していきたいというふうに考えております。

本日ヒアリングにお越しくださいました４名の方々，本当にお忙しい中，貴重な御意見ちょうだいいたしまして，どうもありがとうございました。

それでは，本日の分科会は以上とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

―了―